

D部門論文委員会意見交換会

2012年8月23日(木)

千葉工業大学 津田沼キャンパス 6号館611教室

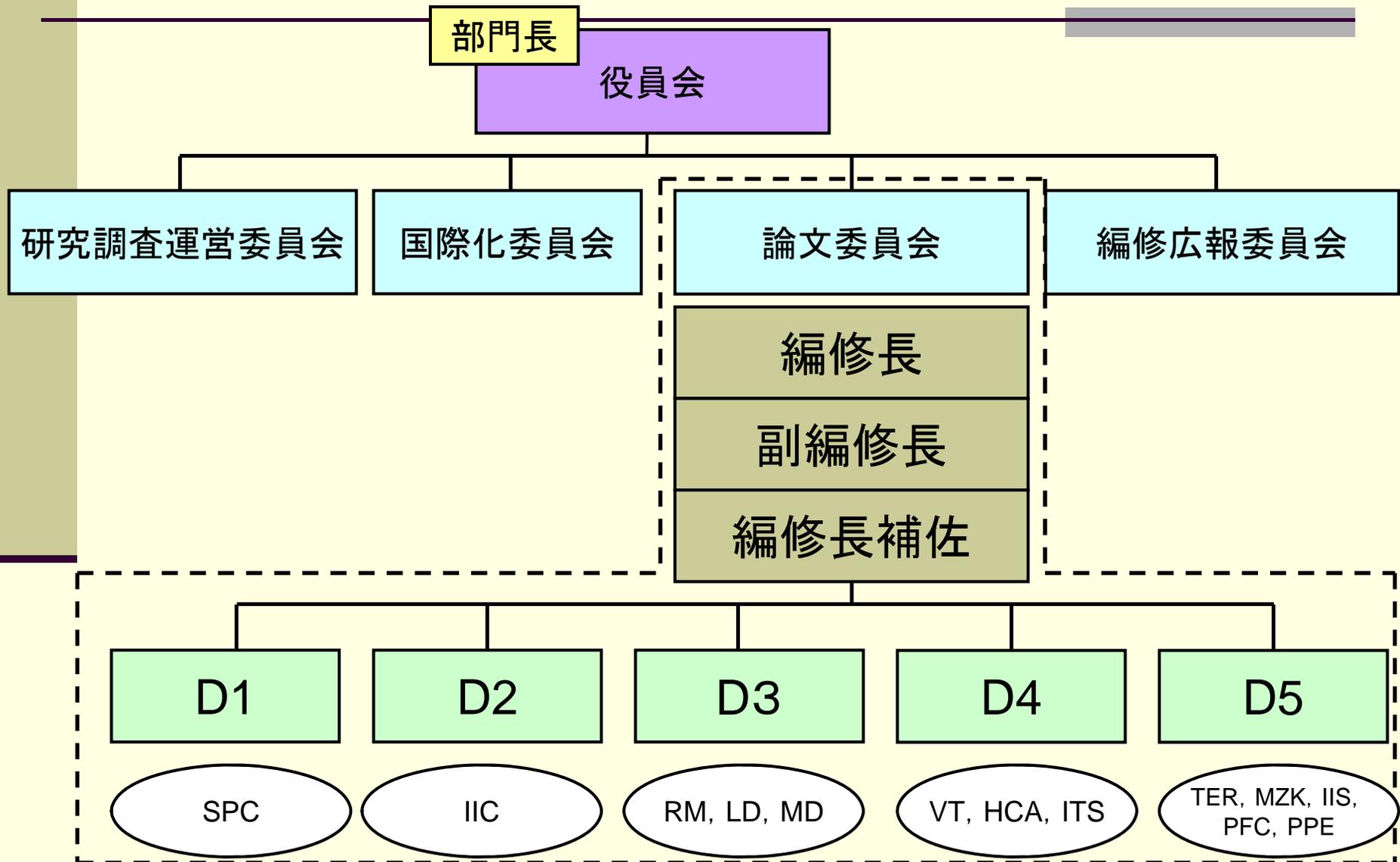
議事次第

- 論文委員会の新体制紹介・編修長あいさつ・・・竹下編修長
- 最近の論文委員会の活動について・・・竹下編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・・・寺田副編修長
- 電子投稿査読システムの新システムへの移行..村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- フリーディスカッション

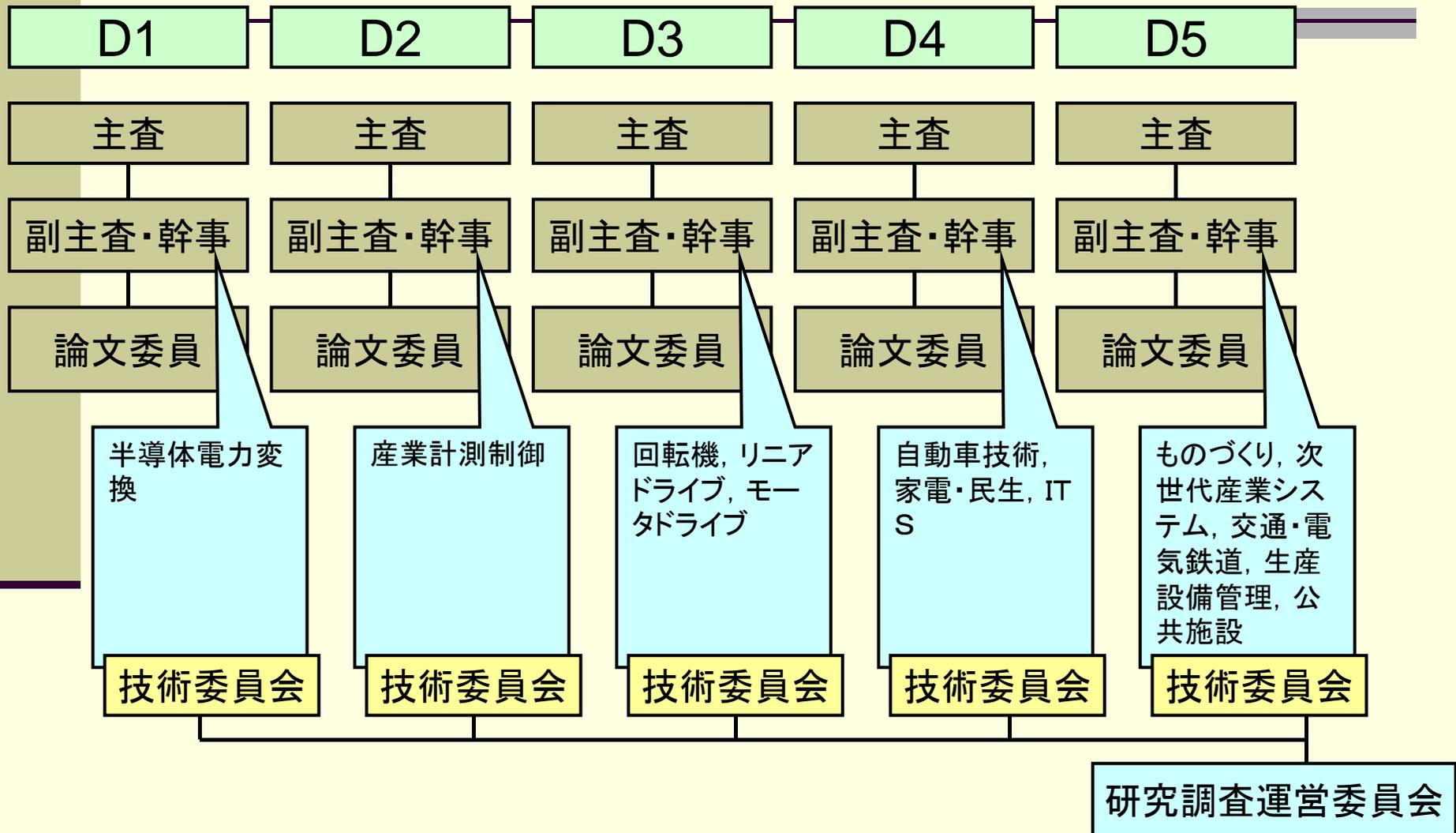
編修長あいさつ

編修長 竹下隆晴
(名古屋工業大学)

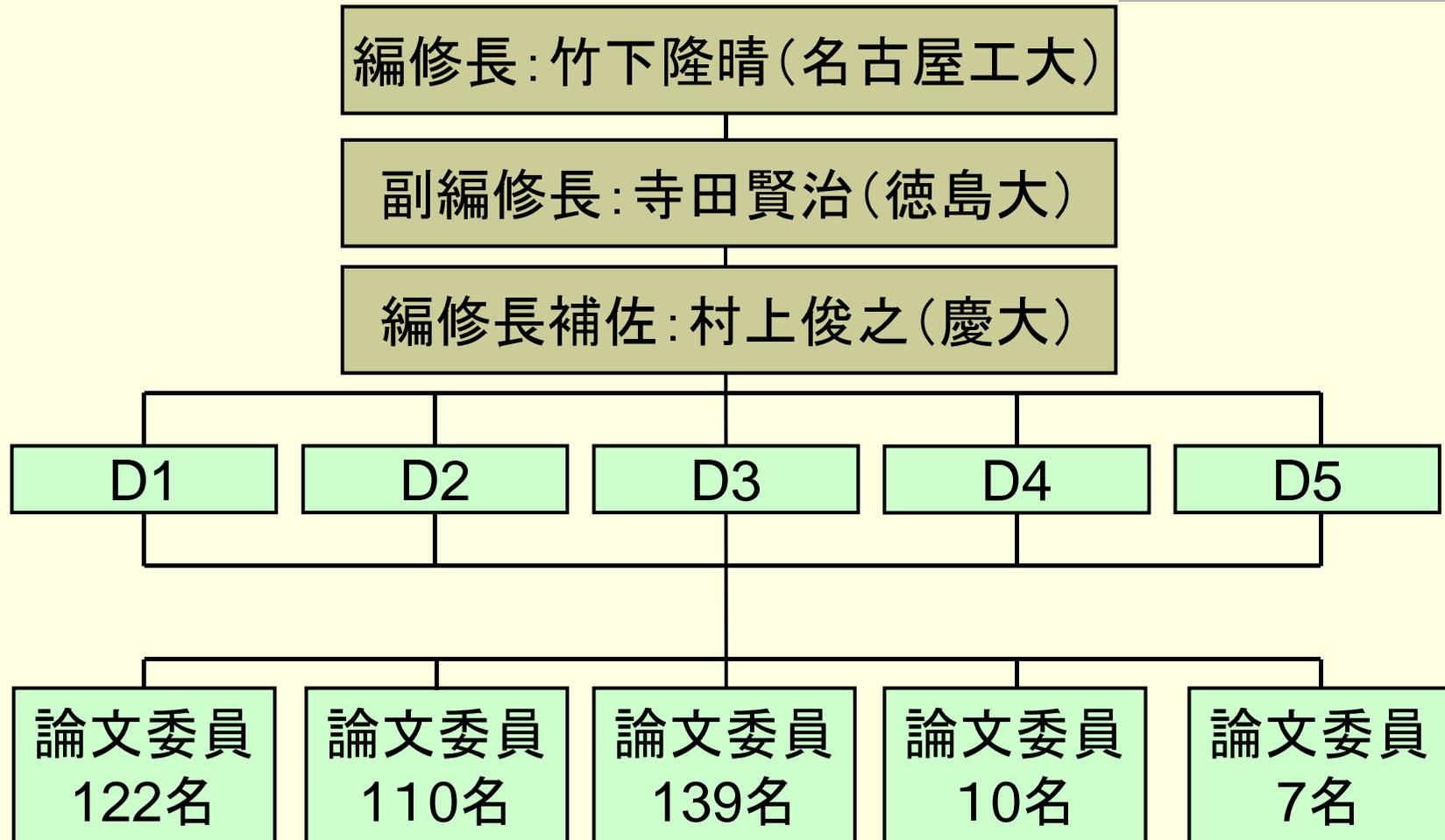
D部門における論文委員会



論文委員会の組織



論文委員会の構成



2012年度メンバー(D1)		
役職	氏名	所属
主査	船渡 寛人	宇都宮大学
副主査	綾野 秀樹	東京工業高等専門学校
幹事	庄山 正仁	九州大学
〃	中沢 洋介	東芝
〃	三野 和明	富士電機
〃	森實 俊充	大阪工業大学

2012年度メンバー(D3)		
役職	氏名	所属
主査	村井 敏昭	東海旅客鉄道
副主査	野口 季彦	静岡大学
幹事	川村 光弘	東芝三菱電機産業システム
〃	樋口 剛	長崎大学
〃	廣塚 功	中部大学
〃	山本 吉朗	鹿児島大学
〃	森下 明平	工学院大学
〃	山本 修	職業能力開発総合大学校

2012年度メンバー(D2)		
役職	氏名	所属
主査	山口 高司	リコー
副主査	岩崎 誠	名古屋工業大学
幹事	高橋 悟	香川大学
〃	駒田 諭	三重大学
〃	満倉 靖恵	慶應義塾大学
〃	内村 裕	芝浦工業大学

2012年度メンバー(D4)		
役職	氏名	所属
主査	道木 慎二	名古屋大学
副主査	叶田 玲彦	日立製作所
幹事	浜松 芳夫	日本大学
〃	宮武 昌史	上智大学

2012年度メンバー(D5)		
役職	氏名	所属
主査	亀井 克之	三菱電機
副主査	近藤圭一郎	千葉大学
幹事	鈴木 健嗣	筑波大学
〃	市川 紀充	工学院大学
〃	結城 和明	東芝
〃	山中 理	東芝

編修長あいさつ

- 論文をよりよいものにしよう！
- 編修作業をより透明にしよう！

論文の著者と査読者に共通認識を持っていただくことが重要

- 査読マニュアルの周知・徹底
- 論文委員会ホームページの活用
- ニュースレターの積極的な活用

本日の出席予定者数

- D1 122名
 - 出席：32名，欠席：23名，未定：67名
- D2 110名
 - 出席：13名，欠席：31名，未定：66名
- D3 139名
 - 出席：21名，欠席：32名，未定：86名
- D4 10名
 - 出席：1名，欠席：1名，未定：8名
- D5 7名
 - 出席：2名，欠席：3名，未定：2名
- 編修広報委員
 - 出席：3名

出席者総数：72名 (H23:72名, H22: 89名)

議事次第

- 論文委員会の新体制紹介・編修長あいさつ・・・竹下編修長
- 最近の論文委員会の活動について・・・竹下編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・・・・・村上編修長補佐
- 電子投稿査読システムの新システムへの移行..村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- フリーディスカッション

査読マニュアルについて

編修長 竹下隆晴
(名古屋工業大学)

査読マニュアルの目的

- 目的

- 論文査読の基準を明確にすること。
- 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。

- 査読期間を短縮すること。

- 査読に対する不公平感をなくすこと。

部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作るよう、査読者は論文を早く取り上げるよう努力をすべき。
- 次の論文を出したくなるような査読をすべきである。
 - 何でも掲載すればよいというのでは勿論ない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力がなくなる。

査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか1つが認められるか
技術面のみならず, 考え方や纏め方, 各種応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容, 類似内容が発表されていないか

判定の基準

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
掲載(A判定)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
条件付き掲載 (照会后掲載) (B判定)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
照会后判定(C判定)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
返送(D判定)
- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

1回目の査読でA判定をつける場合 の判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性, 創造性, 有用性のどれが認められるかを(複数でも良い), 明確に記載する。

返送文の書き方

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

その他

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。
- 掲載決定後、最終原稿を作成する過程で意図的に論文として不適切な文言を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善ができることとする

査読フローの改訂

- 2009年の意見交換会の論文委員の意見を受けて、D部門論文委員会主査会、D部門役員会、編修会議の審議を経て、D部門では新しい査読フローを、2011年1月より、2年間試行中である。現行の電子査読システムの運用の範囲内の改訂となっている。
- **改訂ポイント**
 - B判定とC判定をした論文委員は、著者照会後に再査読を必ず行うことになる。

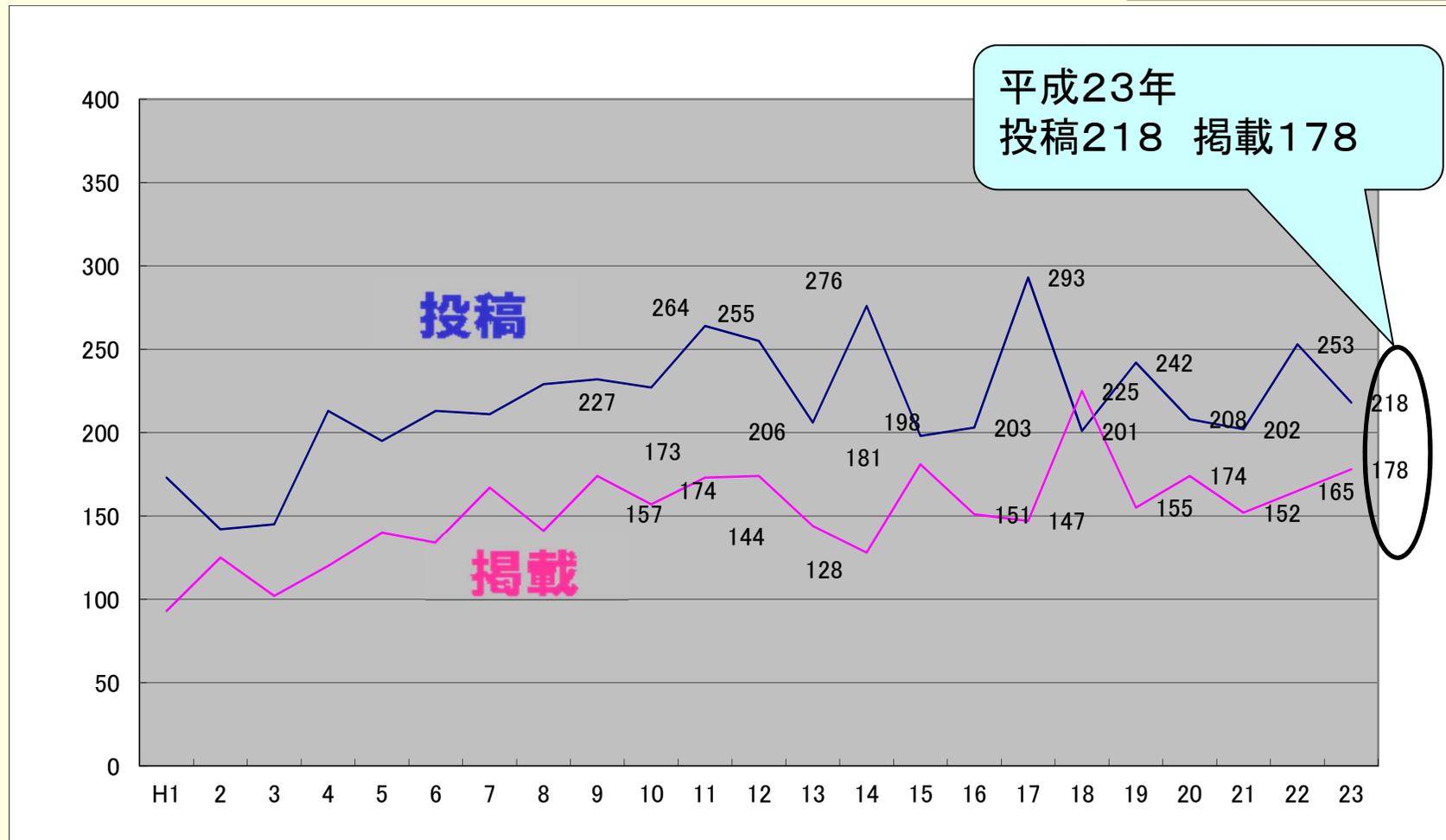
議事次第

- 論文委員会の新体制紹介・編修長あいさつ・・・竹下編修長
- 最近の論文委員会の活動について・・・竹下編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・・・・・寺田副編修長
- 電子投稿査読システムの新システムへの移行..村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- フリーディスカッション

論文投稿・掲載状況

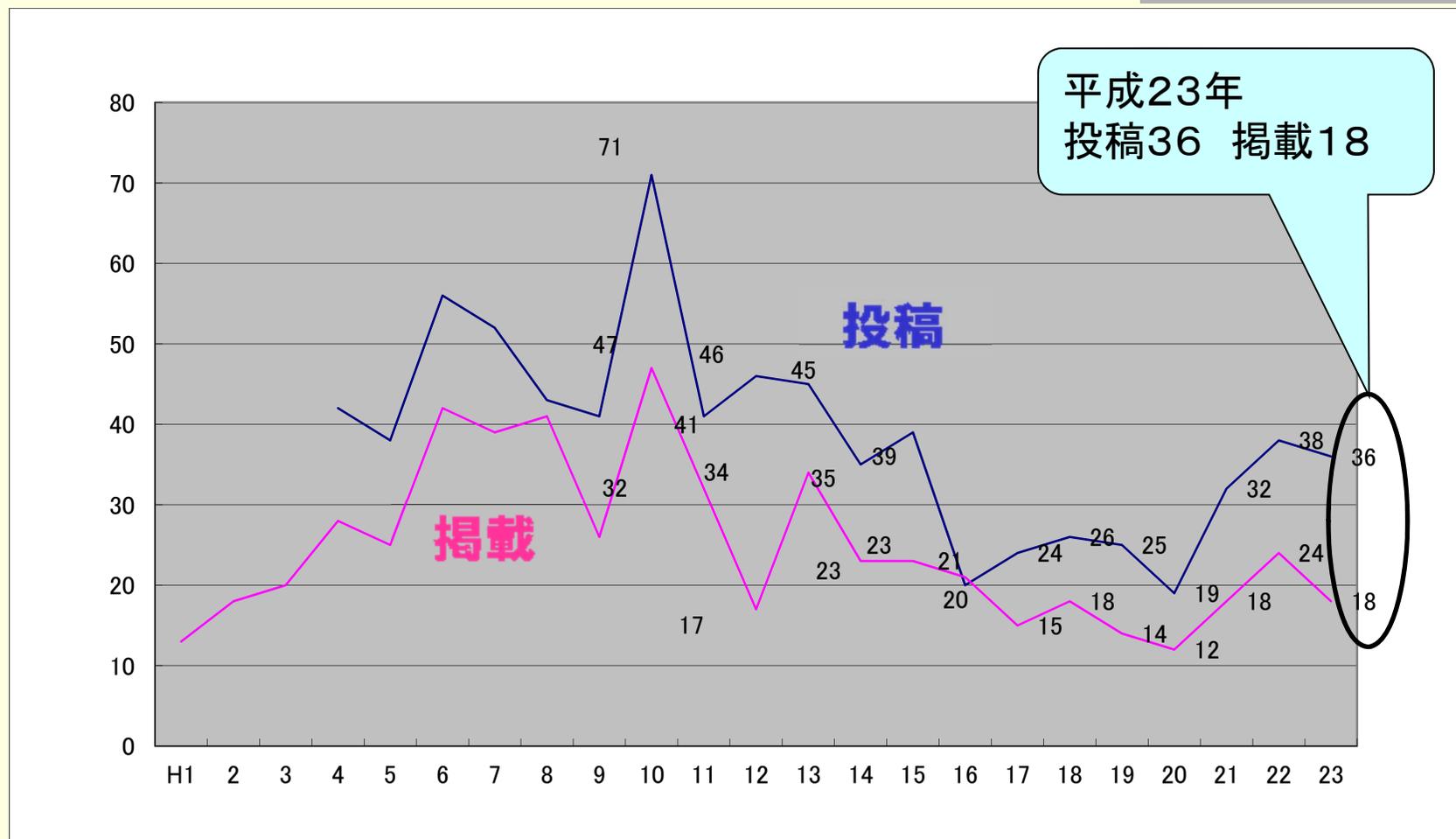
事務局まとめ

論文誌D 論文投稿・掲載件数の推移



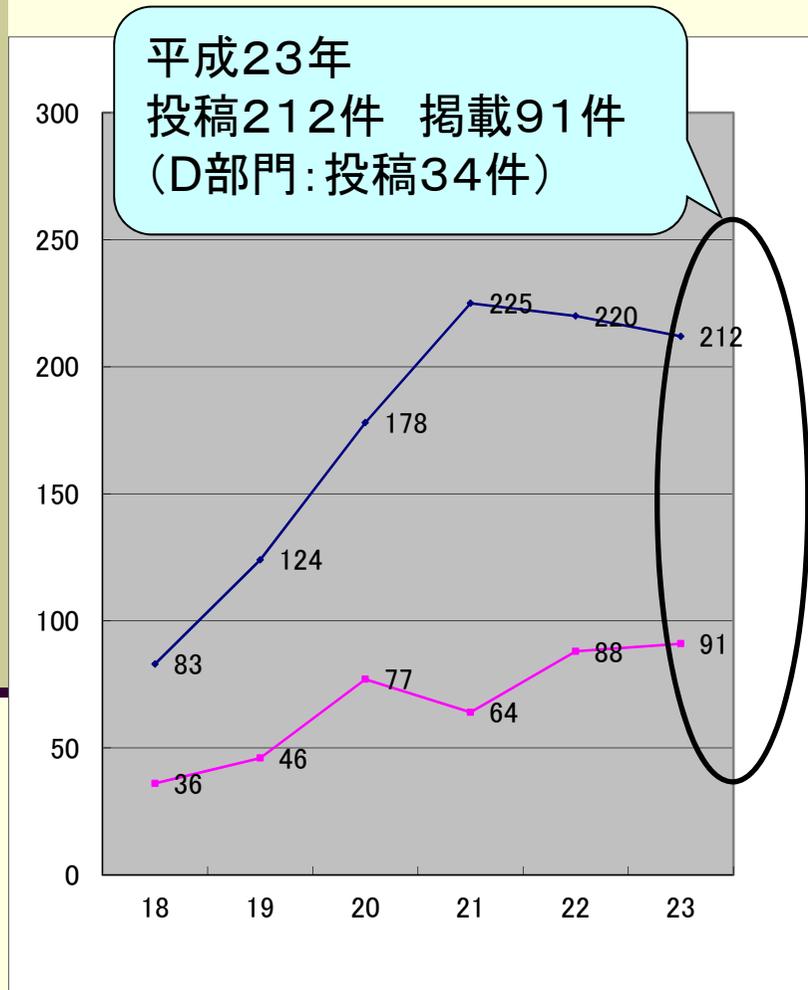
論文誌D

研究開発レター—投稿・掲載件数の推移

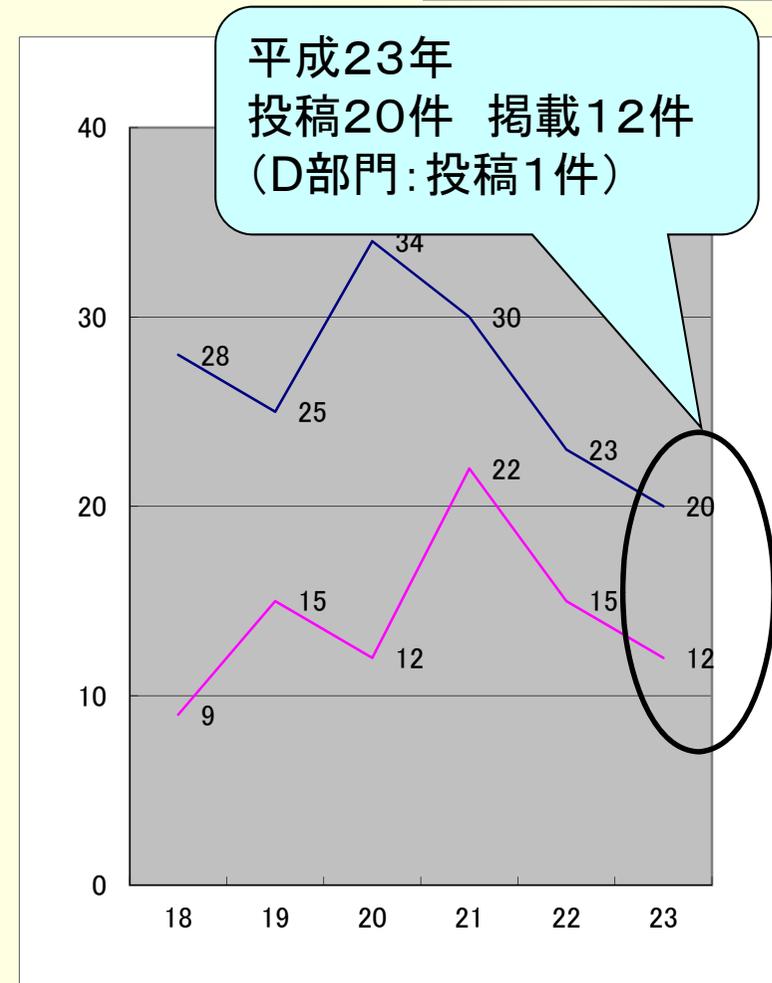


全部門 共通英文論文誌

論文・研究開発レター 投稿・掲載件数の推移



論文



研究開発レター

IEEJ Journal of Industry Applications (電気学会英文論文誌D)

- 平成24年7月から発刊(隔月)
- アメリカThomson社の“Science Citation Index Expanded (TM) (SCI)”に取得を目標

2012年 7月「Power Electronics」(6件:特集論文, 2件:一般論文)

2012年11月「Motor Drive and Related Technologies」

2013年 1月「Motion Control and its Related Technologies」

2013年11月「Technologies of Rotating Machinery」

2014年 3月「Motor Drive and its Related Technologies」

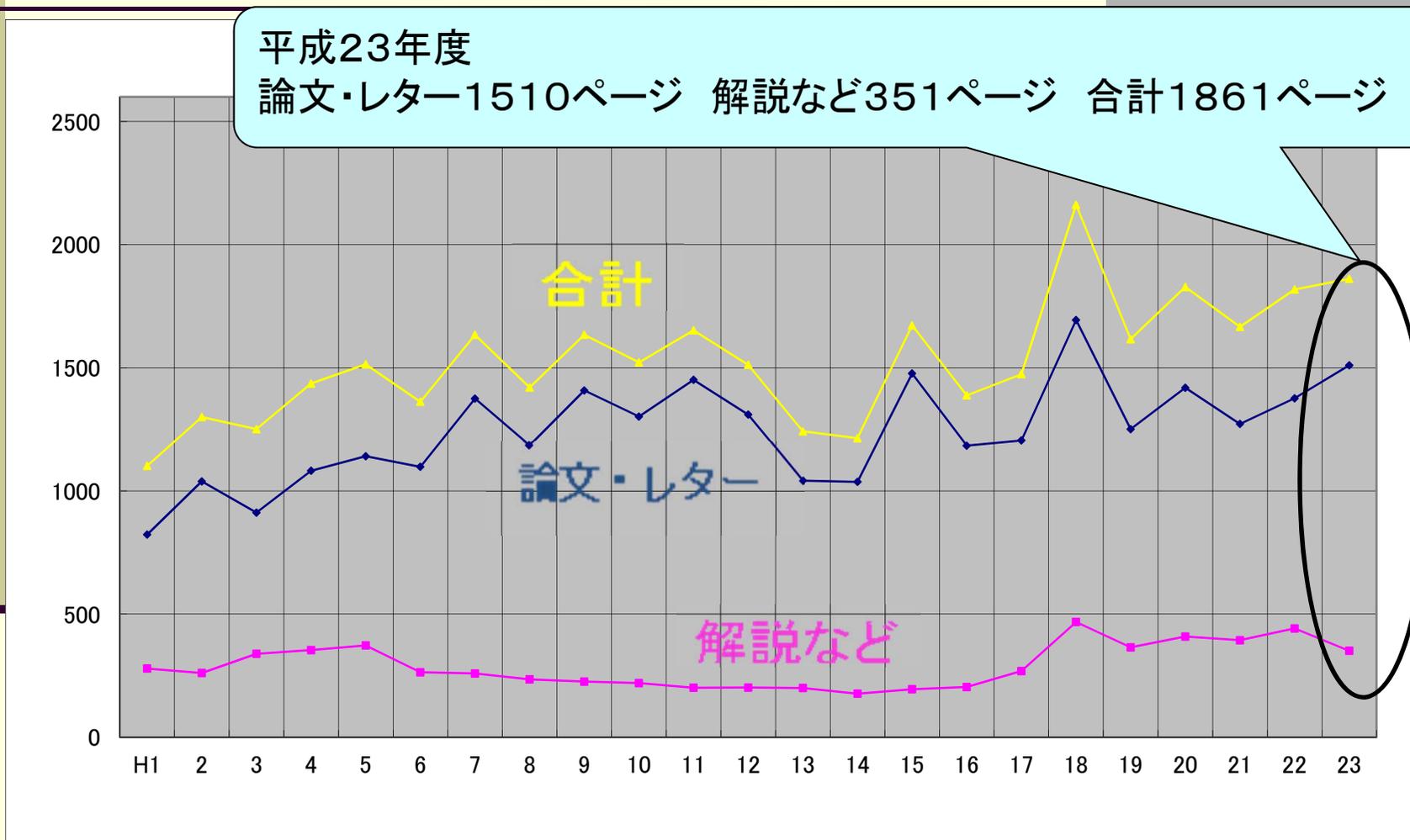
参考: 共通英文誌

平成23年D部門関連の一般論文投稿が34件

論文誌D 発行ページ数の推移

平成23年度

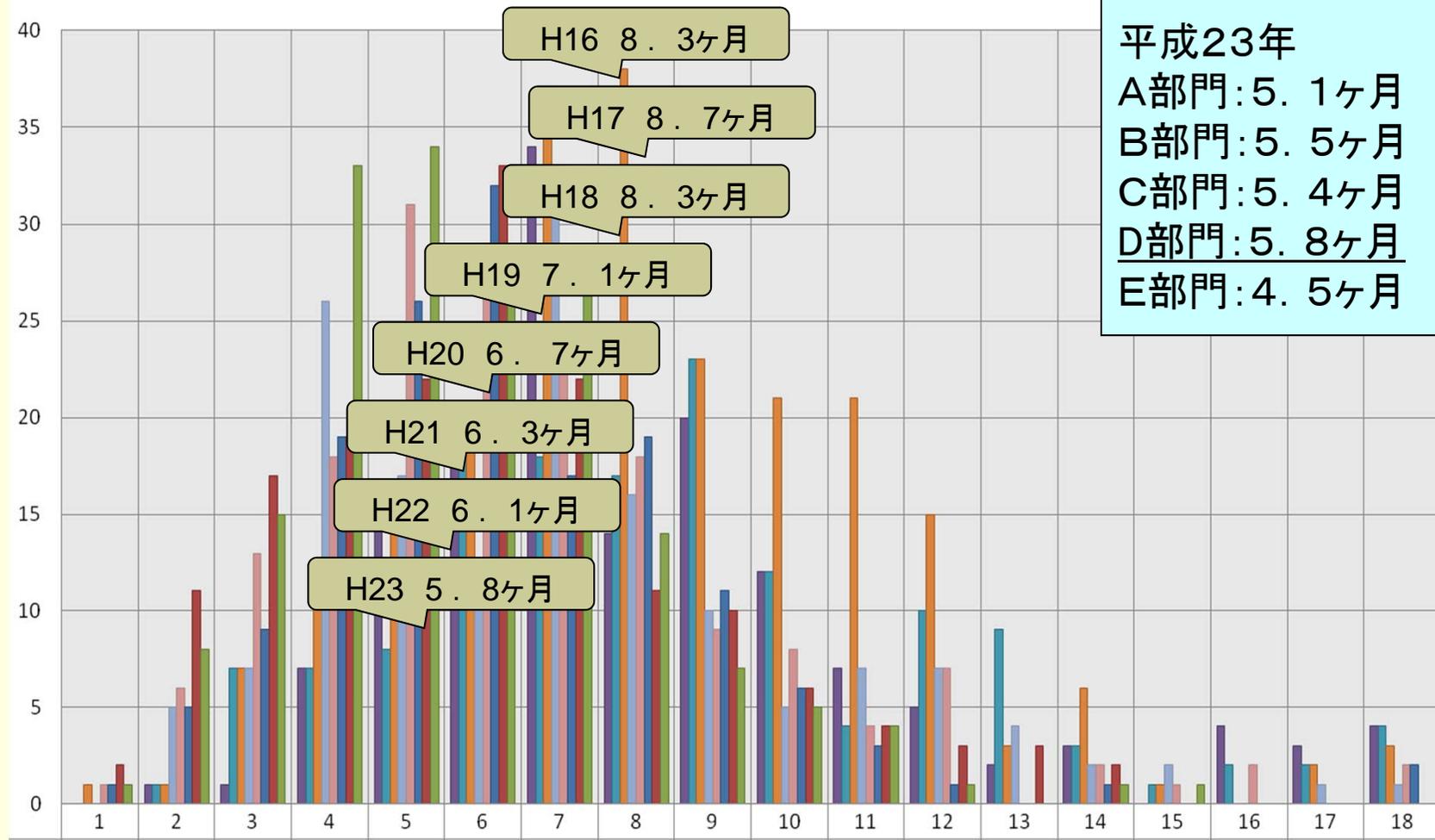
論文・レター1510ページ 解説など351ページ 合計1861ページ



論文誌D

論文掲載までの所要月数

掲載数

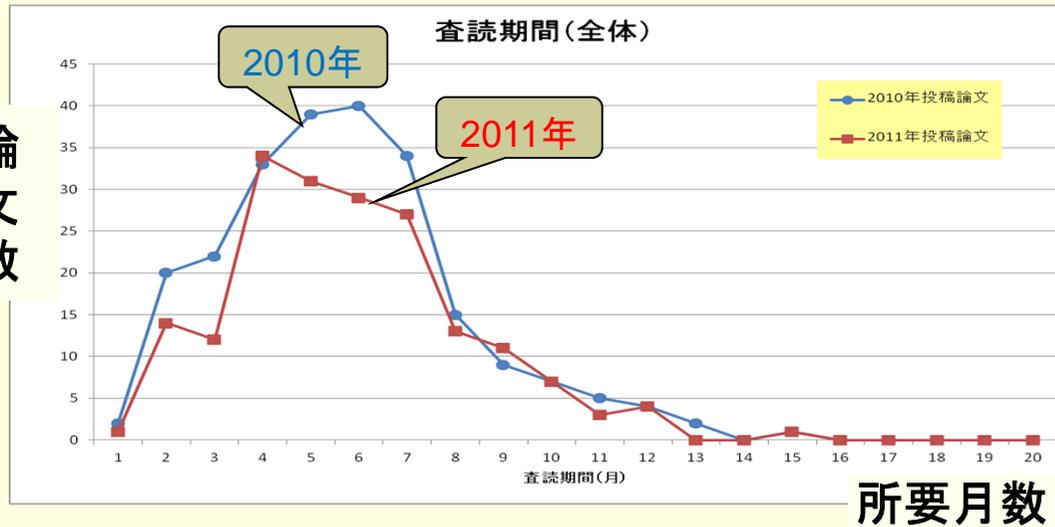


平成23年
A部門:5.1ヶ月
B部門:5.5ヶ月
C部門:5.4ヶ月
D部門:5.8ヶ月
E部門:4.5ヶ月

所要月数

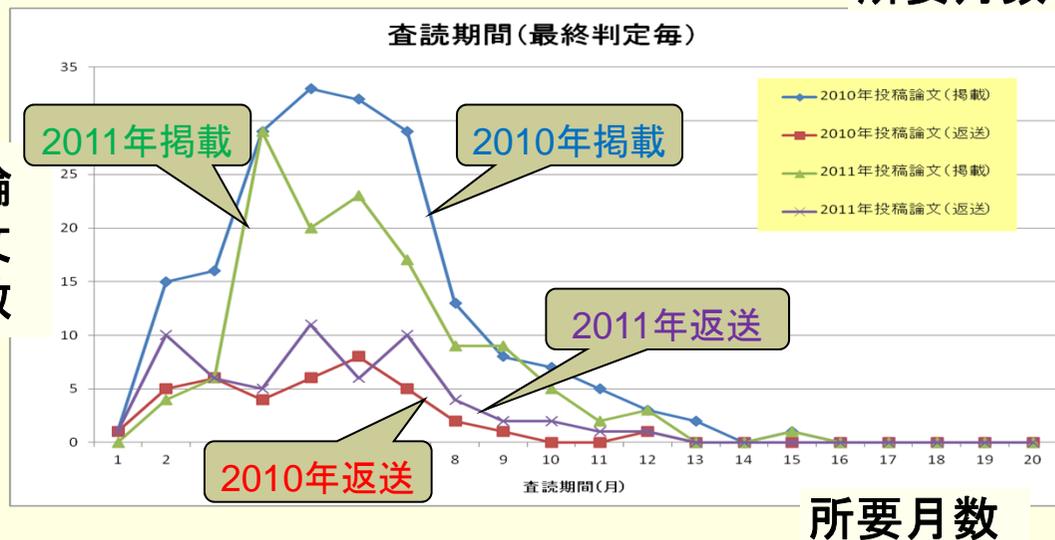
論文誌D査読フロー改訂による採否決定所要期間

論文数



平均査読期間 (論文数)
 2010年 173.7日 (233)
 2011年 177.2日 (187)
3.5日増

論文数



平均査読期間
 掲載論文
 2010年 178.0日 (194)
 2011年 184.2日 (128)
6.2日増
 返送論文
 2010年 152.4日 (39)
 2011年 161.9日 (59)
9.5日増

Extended Summaryのチェック

- 平成20年から、掲載が決定した和文論文のExtended Summary のネイティブ・チェック試行
- 平成24年4月より全論文に拡大
 - 外国人が理解できるExtended Summary へ！

議事次第

- 論文委員会の新体制紹介・編修長あいさつ・・・竹下編修長
- 最近の論文委員会の活動について・・・竹下編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・・・・・寺田副編修長
- 電子投稿査読システムの新システムへの移行..村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- フリーディスカッション

電子査読システムの運用状況

副編修長 寺田賢治
(徳島大学)

電子投稿・査読システム運用状況

- 2011年1月より新査読フローによる査読が行われています。
- 2011年4月よりD1～D3(3グループ)体制からD1～D5(5グループ)体制にて投稿論文の査読対応を行っております。
- 2012年7月よりIEEEJ Journal of Industry Applications(電気学会英文論文誌D)を発行, 新電子・査読システムが立ち上がるまでは邦文誌サイトで論文投稿受付

電子投稿・査読システム運用状況

- 2010年1月から、共通英文誌の電子査読・投稿システムの査読フロー変更（部門誌と同じフローへ：初回査読でC判定可）
- 全部門に跨る電子投稿・査読システム改善検討WGにおいてシステムのバージョンアップを検討

議事次第

- 論文委員会の新体制紹介・編修長あいさつ・・・竹下編修長
- 最近の論文委員会の活動について・・・竹下編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・・・・・寺田副編修長
- 電子投稿査読システムの新システムへの移行..村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- フリーディスカッション

電子投稿査読システムの新システムへの移行

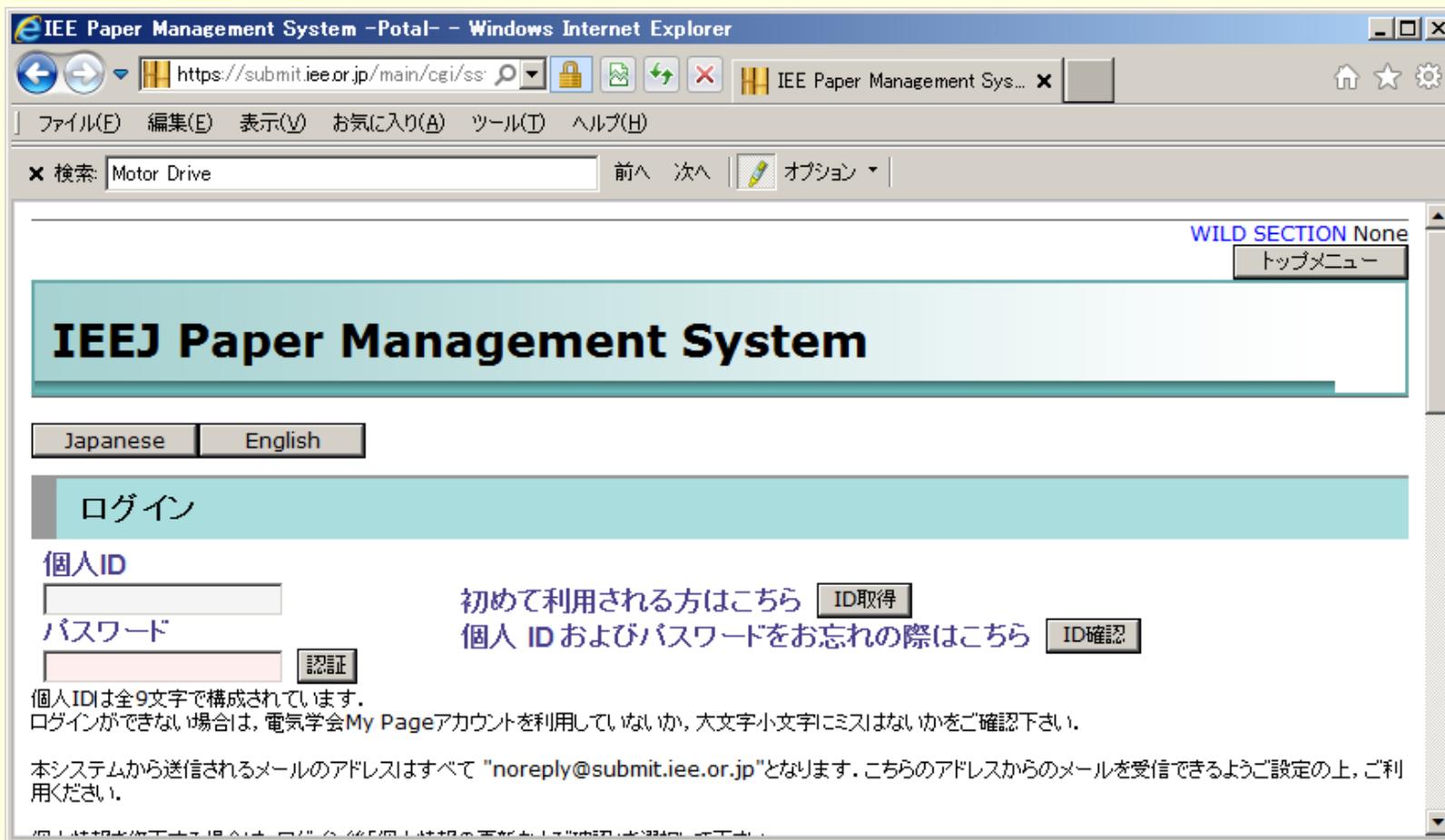
編修長補佐 村上俊之
(慶應義塾大学)

電子投稿・査読新システム 立ち上げスケジュール(予定)

- **2012年8月30日(木)** 論文委員に新システムのID登録について案内
※登録を希望しない方は要返信
- **2012年9月10日(月)** ID登録可否の回答締切
- **2012年9月20日(木)** 新システムにID登録別途, 論文委員にID確認とパスワード変更について案内
- **2012年10月1日(月)10:00**
新システム運用開始!!!!

電子投稿・査読新システム システムの概要（部門誌選択）

- ログインサイトは全部門誌で共通（邦文）



The screenshot shows a web browser window titled "IEE Paper Management System -Portal- - Windows Internet Explorer". The address bar shows the URL "https://submit.iee.or.jp/main/cgi/ss". The search bar contains "Motor Drive". The main content area features the title "IEEJ Paper Management System" and language selection buttons for "Japanese" and "English". Below this is a "ログイン" (Login) section with input fields for "個人ID" (Personal ID) and "パスワード" (Password), and a "認証" (Authenticate) button. There are also links for "初めて利用される方はこちら ID取得" (For first-time users, click here for ID acquisition) and "個人IDおよびパスワードをお忘れの際はこちら ID確認" (If you forget your ID and password, click here for ID confirmation). A note at the bottom states: "個人IDは全9文字で構成されています。ログインができない場合は、電気学会My Pageアカウントを利用していないか、大文字小文字にミスはないかをご確認下さい。" (The personal ID consists of 9 characters. If you cannot log in, please check if you are not using the IEE My Page account, if there are no mistakes in uppercase and lowercase letters, etc.).

電子投稿・査読新システム システムの概要(部門誌選択)

- ログインサイトは全部門誌で共通(邦文)

The screenshot shows the IEE Paper Management System login page in Internet Explorer. The browser address bar shows <https://submit.iee.or.jp/main/c>. The search bar contains "Motor Drive". The page title is "IEEJ Paper Management System". A "Top Menu" section is visible. Below it, a message reads "Prof XXXXXXX XXXXXXX 様, おはようございます." There is a button for "新規作業画面作成". A section titled "論文・資料・研究開発レターの投稿" contains a dropdown menu for selecting a journal. The dropdown menu is open, showing the following options: 論文誌A, 共通英文論文誌(TEEE A), 論文誌B, 共通英文論文誌(TEEE B), 論文誌C, 共通英文論文誌(TEEE C), 論文誌D, 英文論文誌D, 共通英文論文誌(TEEE D), 論文誌E, 共通英文論文誌(TEEE E). A red arrow points from the dropdown menu to a larger, detailed view of the menu options on the right side of the image.

論文誌A
共通英文論文誌(TEEE A)
論文誌B
共通英文論文誌(TEEE B)
論文誌C
共通英文論文誌(TEEE C)
論文誌D
英文論文誌D
共通英文論文誌(TEEE D)
論文誌E
共通英文論文誌(TEEE E)

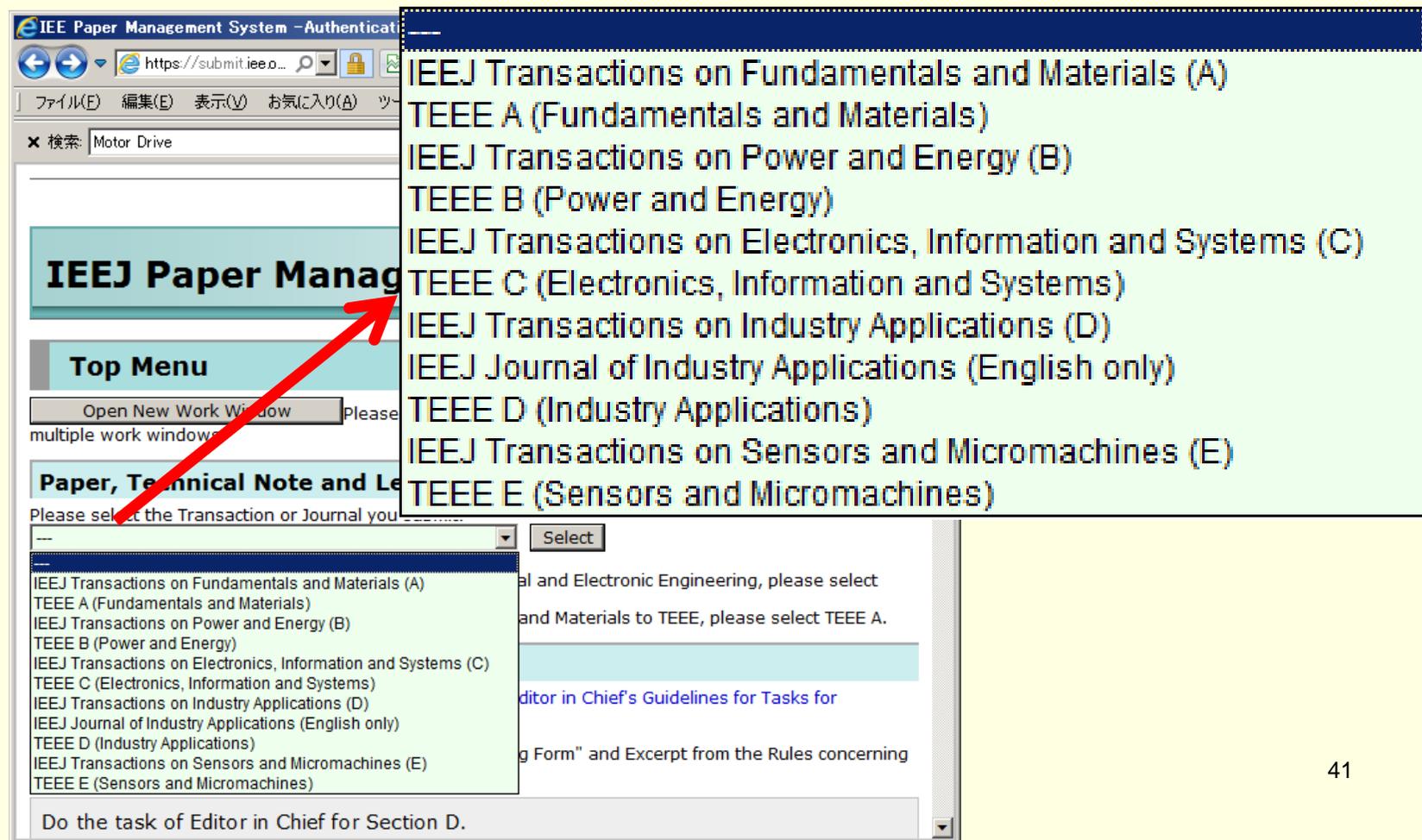
電子投稿・査読新システム システムの概要（部門誌選択）

- ログインサイトは全部門誌で共通（英文）

The screenshot shows a web browser window titled "IEE Paper Management System -Portal- - Windows Internet Explorer". The address bar shows the URL "https://submit.iee.or.jp/main/cgi/ss". The search bar contains "Motor Drive". The page content includes a "WILD SECTION None" link and a "Top Menu" button. The main heading is "IEEJ Paper Management System". Below this are language selection buttons for "Japanese" and "English". A "Login" section contains input fields for "PERSONAL ID" and "PASSWORD", with an "Enter" button next to the password field. To the right of the login fields are two buttons: "Register" and "Confirm". The "Register" button is accompanied by the text "REGISTER YOUR PERSONAL DATA AND GET ID" and "Please register if you never obtained a personal ID before." The "Confirm" button is accompanied by the text "CONFIRM YOUR PERSONAL ID AND PASSWORD". Below the login fields, there is a note: "Personal ID is composed of 9 characters. If you were not able to login, please make sure IEEJ membership account is not used for this system and its case matters. Please set to be able to receive e-mails from IEEJ Paper Management System (noreply@submit.iee.or.jp) before using." At the bottom, a "Notice" states: "Notice: 'noreply@submit.iee.or.jp' is e-mail address for sending only. Please note that we cannot answer if you send mails to".

電子投稿・査読新システム システムの概要（部門誌選択）

■ ログインサイトは全部門誌で共通（英文）



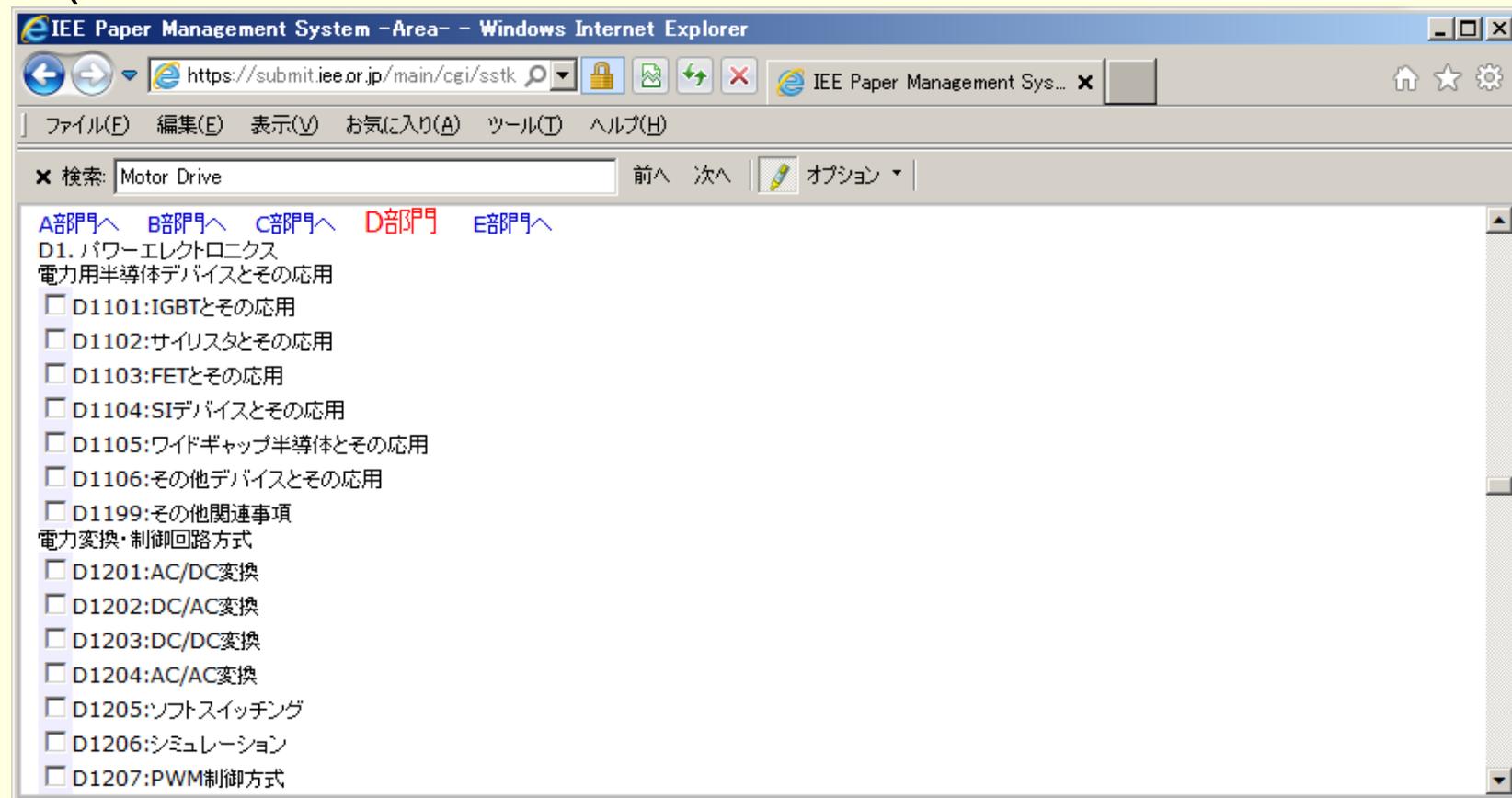
The screenshot displays the IEEJ Paper Management System interface. A search bar at the top contains the text "Motor Drive". Below the search bar, the main heading "IEEJ Paper Management System" is visible. A "Top Menu" section includes a button labeled "Open New Work Window". The primary action area is titled "Paper, Technical Note and Letter" and prompts the user to "Please select the Transaction or Journal you wish to submit". A dropdown menu is open, listing the following options:

- IEEJ Transactions on Fundamentals and Materials (A)
- TEEE A (Fundamentals and Materials)
- IEEJ Transactions on Power and Energy (B)
- TEEE B (Power and Energy)
- IEEJ Transactions on Electronics, Information and Systems (C)
- TEEE C (Electronics, Information and Systems)
- IEEJ Transactions on Industry Applications (D)
- IEEJ Journal of Industry Applications (English only)
- TEEE D (Industry Applications)
- IEEJ Transactions on Sensors and Micromachines (E)
- TEEE E (Sensors and Micromachines)

A red arrow points from the "Paper, Technical Note and Letter" section to the dropdown menu. Below the dropdown, a "Select" button is visible. The page footer contains the text "Do the task of Editor in Chief for Section D."

電子投稿・査読新システム システムの概要(キーワード選択)

- 技術員会のキーワードをベースに選択
(現状の画面)



電子投稿・査読新システム システムの概要(キーワード選択)

■ 技術員会のキーワードをベースに選択 (新規画面)

委員会No.	選択番号	略称	技術委員会名	各技術委員会の取扱う主な分野 (2010年10月4日改訂)
D1	1	SPC	半導体電力変換	(1) 電力用半導体デバイス(SiCデバイス,GaNデバイス,太陽電池を含む)の応用技術, (2) パワーICとその応用技術, (3) 電力用高密度化実装技術(L,C,その他要素部品を含む), (4) 電力変換回路・方式(新エネルギー活用技術, 省エネ化技術を含む), (5) 無効電力と高周波の抑制・制御(フィルタ, EMI/EMCを含む), (6) 電力変換装置への制御理論の適用, (7) 各種電源装置(無停電電源装置・スイッチングレギュレータ・高周波電源を含む), (8) 電力変換装置の応用一般
D2	2	IIC	産業計測制御	(1) センシング技術, 信号処理技術, 各種センサの応用, (2) トランスデューサとデータアキュイジション, (3) マイクロメカニズム・種小運動システム, (4) 制御機器・装置, プロセスディスプレイ, (5) シーケンス制御, プログラマブルコントローラ, (6) モーションコントロール, (7) アクチュエータとサーボ技術, (8) ロボットの制御と応用, (9) デジタル制御・ロバスト制御の産業応用, (10) オプザーバ・推定理論の産業応用, (11) ニューラルネットワーク, AIの産業応用, (12) 工場内通信, 制御用ネットワーク, (13) 触覚・力覚センシングと制御, (14) 生物模倣型メカトロニクス, (15) 生体計測, 環境計測
D3	3	MD	モータドライブ	(1) 各種電動機の制御技術, (2) 各種発電機の制御技術, (3) 電動機駆動に適した制御理論, (4) 各種電動機の制御用モデル(パラメータ計測を含む), (5) モータドライブシステム実用化技術(EMI/EMC, パッケージングを含む), (6) 駆動回路や制御回路の実装技術(DSPやFPGAを含む), (7) 回転機用センサ技術, (8) 電動機駆動適用技術
	4	RM	回転機	各種回転機の解析, 設計, 制御, 試験法, 材料, その他関連事項に係る技術分野: (1) 同期機(巻線界磁形, 永久磁石形), (2) 誘導機, (3) 直流機, (4) リラクタンスモータ, (5) 小形モータ, (6) その他回転機一般(応用システムにおける回転機, 特殊回転機, 回転センサ, 回転機の保護・振動・騒音・冷却等)
	5	LD	リニアドライブ	(1) リニアモータ(リニアモータ, リニア同期モータ, リニア誘導モータ, リニア直流モータ), (2) 多次元・新世代アクチュエータ(リニア電磁アクチュエータ, 平面モータ, 球面モータ, 非電磁アクチュエータ), (3) 磁気浮上(吸引, 反発浮上, 磁気軸受), (4) 各種の解析手法(電磁界解析, 運動解析, 電磁流体運動解析), (5) 材料技術(永久磁石材, 超電導材, 支持機構, 圧電材料), (6) システム技術(センサ・コントローラ・ドライブ・電源, 特性表示, 評価手法), (7) 医用アクチュエーション技術(人工心臓, MB機器, 細胞操作用MEMS, 医用エネルギー伝送, 電池), (8) リニアドライブ応用技術(主として共通の又は基礎的技術)
D4	6	HCA	家電・民生	家電・民生分野における, (1) 省エネ・創エネ・蓄エネ対応技術, (2) リサイクル・省資源・リユース対応技術, (3) スマートグリッド連携家電システム, (4) スマートメータ応用技術, (5) HEMS応用技術, および, それらを支える, (6) インバータ技術, (7) コンバータ技術, (8) モータ技術, (9) 高周波電源技術
	7	VT	自動車	(1) 自動車環境対応技術(低燃費, 低CO ₂ 排出, エンジン制御技術), (2) 自動車安全システム(走行環境認識センサを含む), (3) 自動車駆動システム(車両制御, 自動車用モータ, 自動車用パワーエレクトロニクス), (4) 車載情報・制御システム(高信頼化手法, ネットワークなど), (5) 自動車電源システム(電源システム, パワー素子), (6) 自動車用センサ・アクチュエータ, (7) 自動車用コントローラ(EMC), (8) 自動車用電池&キャパシタ, (9) 自動車用エネルギーストレージ&パワーサプライ, (10) クルマの電動化, (11) トータルエネルギーマネージメント, (12) スマートグリッドとインフラ協調, (13) HV, PHEV, EV, FCV, アイドリングストップ車
	8	ITS	ITS	(1) 道路電気・通信設備(電力, 通信, 照明, 換気, 防災), (2) 交通管制・施設管制(センシング, モニタリング, 信号制御, 情報提供), (3) 自動車エレクトロニクス(移動体通信, 車載機器), (4) ナビゲーション, (5) ETC関連, (6) 安全運転支援, (7) 交通管理, (8) 道路管理, (9) 公共車両支援, (10) 車両運行管理, (11) 歩行者支援, (12) 緊急車両走行支援, (13) 自動運転, (14) プロンプト応用, (15) 環境負荷低減, (16) SA・PA・道の駅施設設備

議事次第

- 論文委員会の新体制紹介・編修長あいさつ・・・竹下編修長
- 最近の論文委員会の活動について・・・竹下編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・・・寺田副編修長
- 電子投稿査読システムの新システムへの移行..村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- フリーディスカッション

論文委員意見と回答

編修長 竹下隆晴
(名古屋工業大学)

事前のご意見と質問について

- 論文委員, 論文委員会について 4件
- 査読, 査読への貢献について 5件
- 英文論文誌について 2件

合計11件, 頂きました。
ありがとうございました。

H23年: 3件, H22年: 18件

Q 論文委員，論文委員会について(1)

Q1 基本的には論文委員になるには手続きが必要で，委員の方のみが査読者を務められるというようなことをお聞きしました。

そのようなシステムであれば査読を依頼する前にきちんと委員になる手続きをするべきだと思いますし，そのようなシステムであるということをもっと多くの人ができるようになれば良いと思います。

逆に，特に論文委員にならなくても査読ができるシステムにすれば，幹事の方々はお仕事がしやすくなるのではないかと思います。

A 論文委員，論文委員会について(1)

A1 論文委員になっておられない方にも，査読をお願いしています。査読のあり方の改善のためにも，よく見ていただく方には，論文委員になっていただくようお願いしており，今後も広く働きかけてまいります。

Q 論文委員，論文委員会について(2)

Q2 議事録の掲載状況などをメールでご連絡頂けると論文委員会で，今どのような議題を扱っているのかが理解できて良いように思います。

A 論文委員，論文委員会について(2)

A2 ご希望が多いようでしたら，メールでのお知らせも考えてまいります。

Q 論文委員，論文委員会について(3)

Q3 論文幹事は各技術委員会からの推薦で選出されているが，公募制も取り入れるべきではないか。

Q4 論文幹事ごとに採択率や査読期間にどの程度のばらつきがあるのか評価し，ある基準以下であれば任期途中での変更も考える必要がある。現幹事について論文委員会内で評価を行って頂きたい。

A 論文委員，論文委員会について(3)

A3 公募について

現状のシステムでは，論文幹事の選出は技術委員会からの推薦と論文委員会の承認を経て行っております。様々なバランスを考える必要がありますが，公募も有効な手法であり，検討を行っております。

A4 幹事の評価について

採択率，査読日数は査読者にも大きく依存します。採択率の平準化や査読日数の短縮に関しては，多様な分野それぞれに十分な査読者を確保することが重要と考えています。

Q 査読, 査読への貢献について(1)

Q5 査読に時間がかかり過ぎます。

A 査読, 査読への貢献について(1)

A5 査読日数の短縮について取り組んでおり、少しずつではありますが改善も進んでおります。それでも現状D部門は最も時間を要しており、今後さらに短縮を図ってまいります。ご協力をお願い申し上げます。

Q 査読, 査読への貢献について(2)

Q6 B判定とC判定の扱いをよく理解していない部分があります。また, 例えば自分はCとしたが, 総合でBと判定され, 再査読が回付された際にD判定, ないしは少しアップしてB判定等を返せるのか, 等, そのあたりがよく理解できていません。

A 査読, 査読への貢献について(2)

A6 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみの場合はB判定, 必須項目(Mandatory change)を含む場合はC判定になります。また, 再査読では, 初回B判定の場合は, 原則A判定になります。

論文査読マニュアルもご覧下さい。

<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/Manual20091026.pdf>

(電気学会WEBサイト ⇒ 産業応用部門 ⇒ 論文委員会

⇒ 査読者の皆様へ ⇒ 論文査読マニュアル)

Q 査読, 査読への貢献について(3)

Q7 査読の前に“掲載する”と言う自分の言葉を唱え査読を始めると筆者の意向を受け入れやすい。“掲載しない”の言葉が誘惑のように飛び交うと重箱の隅をつつきたくなります。

投稿された論文は基本的態度として掲載する方向で審査してはと思います。

A 査読, 査読への貢献について(3)

A7 論文が備えるべき要件が示されております。
この要件を満たすならば掲載となりますので、これを念頭に審査していただければと考えます。

Q 査読, 査読への貢献について(4)

Q8 論文査読功労賞の設置, 誠にありがとうございました。
対象者の推薦に漏れが無いように, 運営願います。

Q9 査読の多い方は「論文委員会 貢献賞」などと表彰してもらえればと思います。

査読者の労力に何らかの形で還元できるようなシステムづくりを望みます。例えば査読1件につき1ポイントを与えて, ポイントをためて投稿料の補助ができる, 部門大会の参加費の補助ができる, フォーラムの参加費補助ができる, など, 企業の方にもメリットのあるようなシステムが好ましいです。

A 査読, 査読への貢献について(4)

A8 A9 論文査読功労賞を創設し, 第1回の受賞者を選定しました。

ただ, 人数が限られておりますので, ポイント制等へのご要望も承っておきたいと思えます。

Q 英文論文誌について

Q10 英文論文誌の査読体制については、和文誌とは別に設ける必要があると考える。

Q11 英文誌の査読要領などの情報提供をお願いします。

A 英文論文誌について

A10 論文委員会は別々にする計画です。その中で、英文論文誌独自の査読体制を整えていくこととなります。新システムにおいては、和文、英文論文はセレクトにて完全に別投稿となります。

A11 英文誌の査読要領は、**共通英文誌**と同一となります。今後、英文でのマニュアル等を順次整備してまいります。

議事次第

- 論文委員会の新体制紹介・編修長あいさつ・・・竹下編修長
- 最近の論文委員会の活動について・・・竹下編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・・・寺田副編修長
- 電子投稿査読システムの新システムへの移行..村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・・・・・竹下編修長
- フリーディスカッション

フリーディスカッション

終了時間: 13:10